

助成事業実施報告書

団体名.....至誠サイエンスクラブ
 代表者・役職名 氏名.....阪口 洋子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

太古から未来へ繋がるサイエンスツアーに行こう

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1982年3月設立。科学技術館サイエンス友の会立川支部として発足し、現在は独立運営。
 スタッフは15名。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

理科離れをする現在の小学生に対し、科学に対する興味や関心を助長することを、地域指導者によって実行していくことです。また、科学に関する興味を持ってほしいと共に、科学を通して地域社会における子どもと大人のコミュニケーションを深め、将来のよき住民に育てていくことを目指しています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

立川から小田原へ観光バスにより移動し、神奈川県立生命の星・地球博物館、小田原城の天守閣、小田原城歴史見聞館などの場所・施設を見学、日帰りという行程で行った。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

実施日:2017年10月1日(日) 参加者:28名 引率スタッフ:13名
 募集方法として、地域の小学校数校に、今回のプロジェクトの参加募集チラシを生徒一人ひとりに配布し、募集を行った。今回の参加者の多くが、至誠サイエンスクラブが行うプロジェクトに初めての参加であった。それもあり、当団体の活動に興味を示してくれる参加者も増えたことで、新しい地域の人たちへの当団体の活動を知ってもらう事が出来た。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

当団体のスタッフのほとんどが、設立当初から携わっているスタッフであり、みな高齢化している。そのため、今回のプロジェクト実施にあたって、体力的なことで行えることが限られてきている。今後は、企画参加いただいた保護者などに、当団体のスタッフとして活動に参加してもらえるような働きをしていき、若いスタッフの確保が行っていく。

今回、プロジェクトに参加児童の多くが、小学生低学年が多く参加して頂いたこともあり、博物館や小田原城内での展示物や資料の理解をするには難しさがあった。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

